

いつもそばに、
あなたのかぎん。



“地域のために尽くし、愛される銀行”をめざして <http://www.kagin.co.jp/>



かごしまへおじゃったもんせ!

日本ユニシスは、電気自動車 (EV)・プラグイン ハイブリッド車 (PHV) 向け、充電インフラシステムサービス [smart oasis® (スマートオアシス)] を開発し、全国の地方自治体や高速道路のサービスエリア、パーキングエリア、商業施設などでサービスを展開しています。甑島 (こしきしま) に設置した充電スタンドの利用者認証や利用履歴管理を行うため [smart oasis] を提供しています。

株式会社鹿児島銀行 様

銀行業務において最新の情報系アプリケーションを活用するため実績豊富なXenAppを中心としたシンククライアントシステムを導入

地域密着型の金融サービスを提供している鹿児島銀行様は、既存のシンククライアントシステムの老朽化に伴い、2,300人を超える行員が利用するデスクトップ環境を、XenAppによるシンククライアントシステムに更新。動画や音声を含む最新の情報系アプリケーションを動作可能とし、タブレット端末やスマートフォンでの利用も可能な情報基盤を構築した。今後、この基盤をベースに、顧客サービスの充実に向けた戦略を加速させていく予定だ。

リーディングバンクとして、地域の産業振興を積極的に支援

1879年(明治12年)、第四百七十七国立銀行として創業した鹿児島銀行様は、「健全経営」、「地域貢献」、「顧客志向」、「企業活力」の4つを企業理念に掲げ、地域に根ざすリーディングバンクとして基盤を築いてきた。

現在は、2012年度から3年間にわたって第5次経営戦略計画を推進。「地域のために尽くし、愛される銀行」をビジョンに、3つの基本戦略である「地域マーケットの創造」、「経営体質の革新」、「かぎんブランドの深化」に向けた、取り組みを加速させている。

お客様のニーズに応じたサービスを迅速に提供するために、最新のITを積極的に導入。2011年5月にはITを活用した業務の効率性向上を目的に、新しい勘定系システムを稼働させた。

XenApp®、XenDesktop®によるシンククライアントソリューション

シンククライアントとは、Microsoft® Word、Microsoft Excel®など業務で利用するアプリケーションをサーバー上で実行し、その結果の画像情報のみをクライアントPC側に転送する方式だ。日本ユニシスではCitrix社のXenApp、XenDesktopを中心としたソリューションにより、シンククライアントの導入を支援している。あらゆる業種において、数多くのシンククライアント化を手がけてきた日本ユニシスは、導入時のコンサルティングから最適なシステム化の提案、サーバーやネットワークのインフラ基盤の構築、セキュリティ対策、運用管理までワンストップで対応。アプリケーション資産の継承、業務の効率化、ICTコストの削減、事業継続対策など、あらゆる課題解決を支援する。

3つの特長

ダブルホップ機能

IE6とIE8のアプリケーションを一元的に利用できるダブルホップ機能により、エンドユーザがIEのバージョンの違いを意識しない使いやすさを実現した。

複数拠点での印刷対応

印刷物からの情報漏洩対策として、プリンタ設定を簡素化。所属部署やログイン場所に応じた最適設定を可能にした。

サーバー仮想化

Microsoft Hyper-Vを採用し、約90台の物理サーバーを約30台に集約。サーバーの設置スペースを削減したほか、サーバーの故障リスクや運用負荷も軽減した。

導入企業の紹介



株式会社鹿児島銀行

創業 1879年(明治12年)10月6日
資本金 181億3,000万円
従業員数 2,375名
店舗数 155か店(本支店・出張所・代理店)
365か店(無人店舗(ATM設備))
本店所在地 鹿児島市金生町6-6
事業内容 銀行業
(2014年3月現在)

■ システムの概要

システム名称 シンククライアントシステム
システム概要 Citrix XenAppを用いたシンククライアントを本店・事務センターと営業店に導入
Microsoft® Hyper-Vでシンククライアントサーバーを構築
導入期間 10カ月
(2013年5月~2014年3月)



導入の背景 銀行の情報戦略を推進する基盤環境の構築



株式会社鹿児島銀行
システム部
部長
赤塚 典久 氏

鹿児島銀行様は、2007年12月に全行員向けのシンクライアントを導入した。その目的はセキュリティの強化と業務の利便性向上の2つにあった。システム部 部長の赤塚典久氏は「2005

年に個人情報保護法が施行され、セキュリティの強化が求められていました。また、利便性向上の観点からは、ローカルPCにデータを保存すると、常に同じ端末で業務を続けなければなりません。PCのハードディスクが故障すると、データを消失してしまう恐れもあります。こうした理由からシンクライアントを導入して、情報系アプリケーションを共有することにしました」と語る。

しかし、導入してから5年を経過した頃から、古いシンクライアントでは利用できないアプリケーションも増えてきた。同行で利用している情報系アプリケーションは約50種類あり、そのほとんどがWebベースで作られている。ところが古いシンクライアント環境では、Internet Explorer® 6 (IE6)に対応しているアプリケーションしか動かなかったのだ。

「近年の情報系アプリケーションはInternet

Explorer 8 (IE8)以降の対応がほとんどを占めています。そのため最新のアプリケーションを利用する際は、IE6用にダウングレードする必要があります。カスタマイズのためのコストとシステム改修に伴う導入期間の長期化が課題になっていました」(赤塚氏)

また、2007年に同行がシンクライアントを初めて導入して以降、行員のワークスタイルも大きく変わり、どこからでも仕事ができる環境を整える必要があると考えていた。そこで同行は、幅広い端末と最新の情報アプリケーションに対応する新しいシンクライアントの導入を決定する。

赤塚氏は将来を考え、次のように述べた。「今後、鹿児島銀行の情報戦略を強力に推進していくうえで、システムが足かせにならないようにするためにも、幅広く対応できる環境を作ることを目指しました」

選定理由 さまざまな業種での豊富な稼働実績を評価

2012年末から次期シンクライアントの選定に入った鹿児島銀行様は、数ある製品の中からCitrix社のターミナルサーバー型シンクライアントのXenAppを選定した。シンクライアントには主にターミナルサーバー型と仮想デスクトップ型の2つがある。ターミナルサーバー型は、複数のユーザーでアプリケーションを共有する方式で、サーバー集約による管理レベルの向上と、サーバー当たりのユーザー接続数の増大(サーバー台数の削減)というメリットが期待できる。一方の仮想デスクトップ型は、クライアントOSを丸ごと仮想化するもので、仮想PCとクライアント端末は1対1で紐付けられる。そのため、ユーザーの状況に応じて柔軟なリソース割り当てが可能だが、導入コストは高くなる。同行は他地銀での実績とサーバ集約率を考慮し、デファクトスタンダードなCitrix® XenAppを選択した。

「Citrix社のXenAppはデファクトスタンダードの製品として実績があり、モバイルPCからタブレットまで幅広く対応していることが決め手となりました」と、システム部 システム開発グループ 主任調査役の吉永聡氏は振り返る。

導入パートナーには、Citrix社の最上位パートナー(認定システムインテグレータ)である日本ユニシスを指名。その理由は、Citrix社のコンサルティングとの親和性の高さと、さまざまな業種での豊富な稼働実績にあった。

「シンクライアントを更改するうえで欠かせない要件として、短期間でのシステム構築と、安定稼働の2つがありました。その中で稼働実績を重点的に評価した結果、日本ユニシスがベストパートナーであると判断しました」(吉永氏)

また、鹿児島銀行様と日本ユニシスは、勘定系システムの構築においても、ホストコンピュータの



株式会社鹿児島銀行
システム部
システム開発グループ
主任調査役
吉永 聡 氏

時代から40年来のおつきあいがあり、2011年5月に稼働した勘定系システムの構築を支援したのも日本ユニシスだった。そのため、同行の文化を熟知し、長年蓄積してきた日本ユニシスの知見が、情報系システムにも反映されることを期待したと言う。

システム構築のポイント IE6とIE8用のアプリケーションが一元的に利用できる「ダブルホップ機能」

シンクライアントシステムの構築は、2013年5月に始まり、同年10月から同行の本店・事務センターを中心に順次稼働させていった。情報系システムを高い頻度で使う本店・事務センターにおいて、パイロット的に利用しながらシステム改善を重ね、2014年1月からは鹿児島県内155の営業店への順次展開を進め、同年3月4日に全営業店での稼働を開始している。

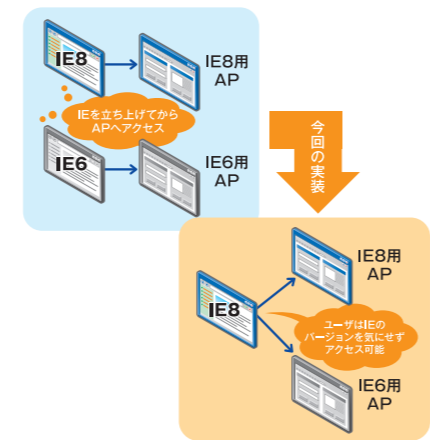
システム構築のポイントは3つある。その1つは、XenAppのハイブリッド機能を活用して、IE6とIE8の複数のブラウザ環境を利用できるようにしたことだ。その結果、古くから利用しているIE6対応のWebアプリケーションと、IE8対応のWebアプリケーションは1つの環境で利用でき

るようになった。同行がこだわったのはユーザー目線でのシステム構築だ。一般的なハイブリッド環境では、IE6用のアプリケーションを使う際はIE6を、IE8用のアプリケーションを使う際はIE8を別々に立ち上げなければならないが、同行ではIE8上からIE6用も含めてすべてのアプリケーションが一元的に起動できるようにした。

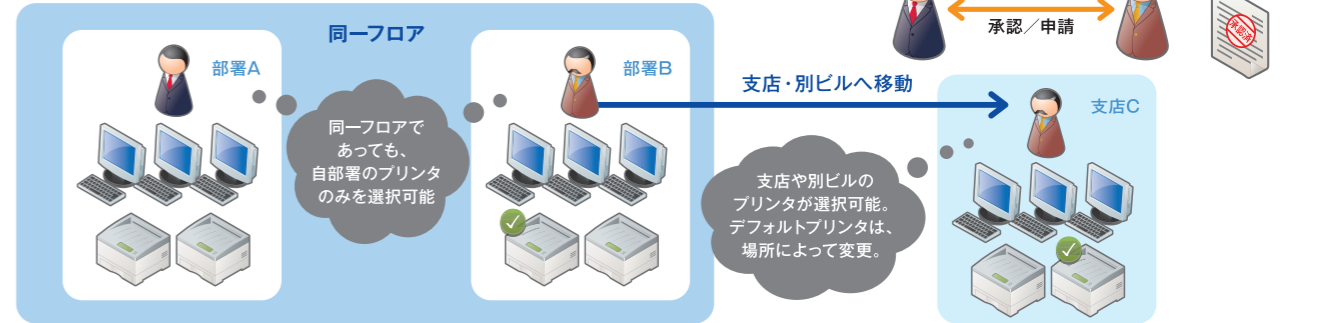
「新しいシンクライアントではIE8で表示されたリンク集からハイパーリンクをクリックするだけでIE6対応のアプリケーションも利用できます。この『ダブルホップ機能』という仕組みを、当行、Citrix社、日本ユニシスの3社で知恵を出し合いながら考えました」(吉永氏)

2つめは、透かし印刷のOn/Off機能とプリン

【シームレスなダブルホップ】



タ設定ツールの構築だ。鹿児島銀行様では、ワークフローシステムにより、透かし印刷のOn/Offができるようにした。また、行員が別の支店などに出かけても、ログインした環境に合わせて最適なプリンタが利用できるプリンタ設定ツールを構築した。吉永氏は「2つの機能を日本ユニシスに構築いただき、非常に助かりました」と述べている。



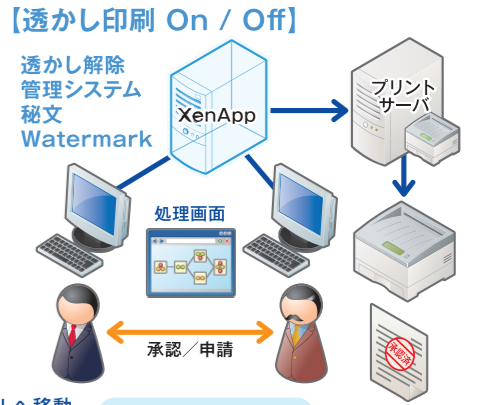
導入効果と今後の展望 タブレット端末やスマートフォンを利用した顧客サービスの実現へ

XenAppへの移行により、鹿児島銀行様は約50種類の情報系アプリケーションを、いつでもどこでも安心して利用できるようになった。今後は、IEのバージョンにとらわれることなく新しいアプリケーションの追加が可能だ。

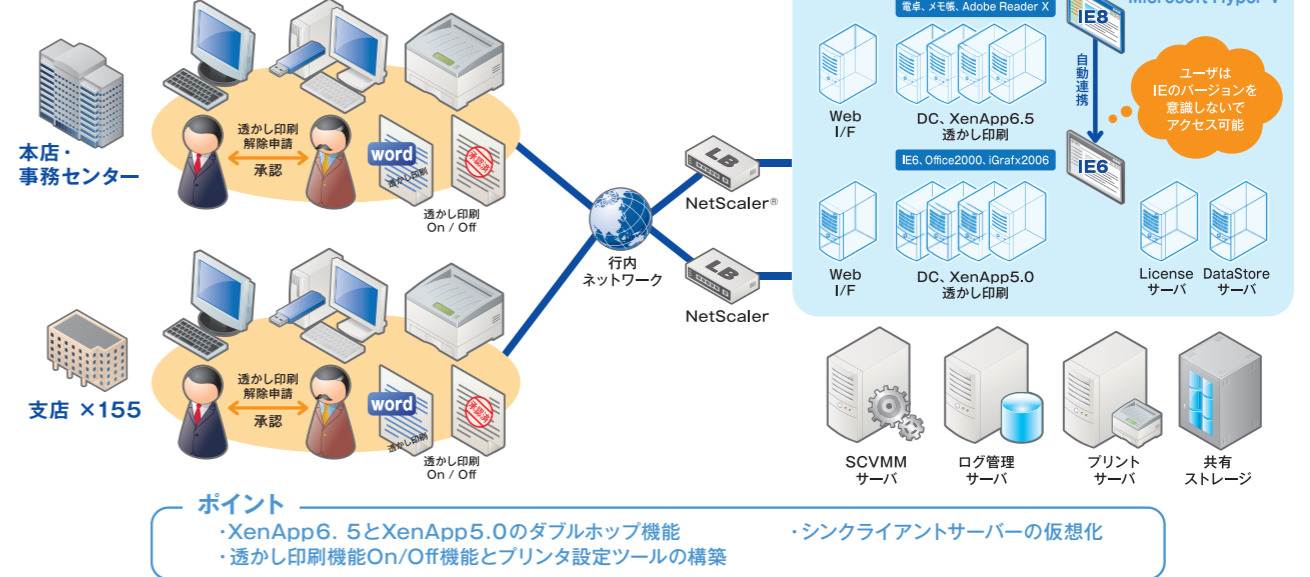
端末の選択肢も増えた。現在はWindows® Embedded等のPC端末をシンクライアント端末として利用しているが、今後はゼロクライアントの検討も可能になる。タブレット端末やスマートフォンなどのスマートデバイスにも対応し、個人所有のモバイルデバイスを業務に使用する

BYOD (Bring Your Own Device)も将来的な選択肢となった。出先であっても、タブレット端末からシンクライアント環境に接続することで、金融商品の説明や資産状況の確認、申込手続きを行うことも将来的な選択肢となった。

また、XenAppが標準で装備する「Citrix HDXテクノロジー」によって低帯域でのネットワークパフォーマンスが向上した結果、以前の環境では対応していなかった動画や音声も利用可能になり、今後の業務への活用が期待されている。吉永氏は「今までは、複数人が会議室などに



【システム概要図】



*smart oasisは、日本ユニシス株式会社の登録商標です。 *Citrix, XenApp, XenDesktop, NetScalerは、Citrix Systems, Inc. の米国あるいはその他の国における登録商標または商標です。
*Microsoft, Microsoft Excel, Windows, Internet Explorerは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
*Windowsの正式名称は、Microsoft Windows Operating Systemです。 *その他記載の会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。



日本ユニシス株式会社
〒135-8560 東京都江東区豊洲1-1-1 TEL: 03-5546-4111 (大代表)
<http://www.unisys.co.jp/solution/thinclient/>